



21人

80歳以上の
初婚者数

平成29年（2017年）『人口動態統計』

クリスマスイブの24日までは人気だけれど、25日を過ぎたら売れなくなる——クリスマスケーキに女性の結婚適齢期を例えたのも今は昔。厚生労働省発表の『人口動態統計』によると、2017年の平均初婚年齢は男性31.1歳・女性29.4歳となっている。女性はかろうじて20代をキープしているものの、男性は2007年の時点で、既に30代へ突入済みだ。

平均初婚年齢は上昇の一途をたどってきたとはいえ、年代別の初婚率を見ると、男女共に最も高いのは25歳～29歳で、30歳～34歳がそれに続く。また、初婚者のうち39歳までが占める割合も、男性89.9%・女性94.8%。この結果からは「40歳までに結婚」という意識が垣間見える。

その一方で、40歳を過ぎて初めて結婚する人は増加傾向にある。初婚者のうち40歳以上が占める割合は、男性10.1%・女性5.2%で、初婚男性の1割が40歳以上。実数では60,849人となっている。

さらに昨今は、アラ還すなわち60歳以上の初婚も珍しくない。ここ数年、男性では1,000人程度、女性では300人以上が60歳オーバーの初婚者。このうち男女共に毎年10人程度が、80歳を過ぎて初婚を決めている。2017年は男性10人、女性11人で計21人。

21人は年間の婚姻者数約121万人のうちの0.0017%というごくわずかな人数だが、すごく気になる数字である。80年間結婚せずに生きてきた方が、どのような理由で傘寿を超えて結婚しようという思いに至ったのか？ そこにはどんなドラマがあったのか？ 想像せずにはいられない。人生100年時代は、結婚したい時が結婚する時なのかもしれない。

10年以上

離婚から再婚までの期間
で最も割合が高いもの

平成29年（2017年）『人口動態統計』

「バツが1つ付いちゃって」「俺なんかバツ3」と明るく語られることも多くなった昨今の離婚事情。2017年の離婚件数は21万2,262組で、1日に580組ほどが離婚している計算になる。婚姻件数60万6,866組と並べてみれば、実に3組に1組のカップルが離婚しているのだ。

「結婚は一度で懲りた。もう二度としない」という人も多いだろうが、「今度こそ」の決意で再婚する人も少なくない。婚姻件数に占める再婚件数の割合は26.6%（2017年）で約3割となっている。

それでは、離婚した人が、もう一度結婚しようと再婚に踏み切るまでには、どのくらいの期間を要しているのだろうか？

今から約50年前の1970年の統計を見ると、最多は「1年未満」で男性40.1%・女性24.2%となっており、「1～2年」「2～3年」と併せると男性77.6%・女性61.6%。つまり、離婚後に再婚した人の多くが3年未満で再婚していた。ところが、2017年では「1年未満」で男性15.3%・女性13.0%となっている。以下、「1～2年」「2～3年」と続き、併せると男性28.4%・女性36.6%で、1970年と比べるとだいぶ差がある。

2017年の統計で最も多いのは「10年以上」で、男性19.4%・女性22.3%である。離婚は結婚の数倍大変と聞かすが、再婚してみようと思うまでに10年以上もかかっているとは、心の傷が癒えるには相当時間がかかるのだろう。

男女の役割分担が明確だった時代と現代では、結婚の意味や、結婚に求めるものも変化していることがうかがえる。

（執筆／ライター 更田 沙良）